

# インフォメーション

生活クラブの学校(地域福祉の連続講座)  
わたしの!あなたの!みんなの  
「居場所」を考えてみよう

2024年3月13日(水) 10:00~12:00

受講料:無料・オンライン開催

西東京市にできたばかりのいちばん新しい「まちの縁がわ」の事例報告を交えて、みんなでつくる居場所について考えます。

講師:香丸真理子(まちの縁がわ東京代表)

海老沢節子(まちの縁がわそよかせ)

お申込みはこちらから➡



「お問い合わせ」

NPO 法人アビリティクラブたすけあい(ACT)

TEL 03-5302-0393

## インクルファンド(地域たすけあい福祉基金) 2024年度助成スケジュール

【第1回】対象:2024年10月~2025年3月に開始する事業や活動

2024年4月8日(月)~募集ニュース配布

6月20日(木)応募締切

9月プレゼンテーション・選考委員会

【第2回】対象:2025年4月~2025年9月に開始する事業や活動

2024年10月7日(月)~募集ニュース配布

12月19日(木)応募締切

2025年3月プレゼンテーション・選考委員会

「お問い合わせ」

生活クラブ運動グループ・インクルーシブ事業連合

TEL 03-5426-5207

## インクルファンド・サポーター登録のお願い

インクルファンドでは、いただいたご寄付をもとに、多世代の居場所づくり、子育て支援、障がい者(児)支援事業など、組合員が参加する地域の様々な事業や活動を支援しています。2013~2022年度まで42件の事業・活動に約3,400万円を助成しました。助成の財源となるのは皆さまからのご寄付です。寄付という意味あるお金を有効活用し、地域に必要なしくみをつくることを応援します。

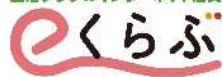
\*毎月1口300円からの寄附を継続します。

すでに登録されている方が申込みされると4月分の請求が重複してしまうのでご注意ください。

班・個別配送の方は注文用紙に右記6桁の注文番号と申込口数をご記入ください。

登録寄付 1口300円(毎月)	
申込期間	3/11(月)~3/15(金)
注文番号	119032
集金月	2024年4月から毎月

生活クラブのインターネット注文



インターネット注文 eくらぶからも  
お申込みいただけます。(3月3回)



### ◆ デポーター組合員の方は

WEBサイト <https://www.inclusive-gr.com/supporter/> から  
サポーター登録ができます。またはお電話でご連絡ください。



ご連絡先/TEL:03-5426-5207

(生活クラブ東京たすけあいネットワーク事業部内)

生活クラブ運動グループ・インクルーシブ事業連合 事務局・平岡



つながって実現! 市民主体のまちづくり型福祉

# インクルーシブ通信

2024年3月  
VOL. 47



発行:生活クラブ運動グループ・インクルーシブ事業連合 発行責任者:小寺浩子 <https://inclusive-gr.com/>

## 生活クラブ運動グループ発のまちづくり事例を共有 2023年度安心ネットワーク構想連絡会報告

2024年2月6日に実施した安心ネットワーク構想連絡会は21の地域協議会が参加し、稲城、国分寺、小平の市民版地域福祉計画で描いたまちづくりの実践を共有しました。

### 稲城地域協議会



稲城の市民版地域福祉計画は、誰もがいきいきと暮らせるまちを、市民の力で協力しながら、自ら楽しみながらつくることを目標に掲げています。

ワーカーズ「こめのこ」は、地元の農産物や消費材を使用した米粉のおやつを製造し、マルシェ等で販売、2024年に店舗を開店予定です。店舗を地域交流の拠点や、子育て世代を中心とした働く場としていくことを目指します。地域協議会が主体となり運営する「こんぺいどうルーム」は2023年より毎週火曜日10~13時OPEN。エココロを用いた託児やイベントを開催しています。

### 小平地域協議会



多世代に向け発信する情報ステーション、地域の居場所となる場所をつくる事などを目標に掲げ、2022年に轆ケイアッシュの片付け事業「わだち・えっさ

ほいさ」が事業をスタートし、2023年には「お弁当のモモ」が立ち上がり、拠点が増えました。また、小平ACTの子ども食堂「あったか小平」では毎月1回、80食を提供するほか、学習支援や寺子屋の活動を行っています。

### 国分寺地域協議会



2012年の3カ年計画から、「多世代での居場所づくりをすすめる」を目標に掲げ、2023年6月にオープンした居場所「にわには」。インクルファンドやACTの助成金を活用して空き家を改修し、寺子屋などの活動を展開しています。

最後に参加した各地域の活動を報告し合い、状況を共有しました。

地域協議会は地域のまちづくりを考える場です。市民版地域福祉計画で地域に必要な機能を描き、地域の公的資源とも連携しながら実現していきましょう!

## 介護保険制度 2024年度改定に向けた要望書を提出

~介護の社会化を後退させないために~

改定を重ねていくごとに介護の質を確保することが難しくなっている介護保険。昨年12月、厚労省に要望書を提出しました。

「要介護1~2の通所介護・訪問介護の総合事業への移行」「ケアプランの有料化」は見送りとなりましたが、次期2027年度の改定では再び議論される可能性が高く、注視が必要です。また、4月1日より適用される介護報酬単位では、訪問介護の基本報酬は身体介護、生活援助、通院等乗降介助ともすべて引き下げられています。基本報酬は引き下げたものの、処遇改善加算のアップにより事業収入全体では影響がないかのように説明されていますが、試算すると最上位の処遇改善加算を取得してもマイナスになり、小規模事業所への影響は重大です。インクルーシブ事業連合では、ACTが構成メンバーである「介護の崩壊をさせない実行委員会」と連携して国への働きかけ等行っています。



要望書を提出する大河原雅子さんとPJメンバー

【インクルーシブ事業連合構成団体】生活クラブ生協・東京/NPO法人アビリティクラブたすけあい(ACT)/ACTたすけあいワーカーズ・コレクティブ連合/NPO法人ACT人とまちづくり/社会福祉法人悠遊/東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合/東京・生活者ネットワーク/東京CPB(コミュニティパワーバンク)/認定NPO法人市民シンクタンクひと・まち社/NPO法人まちぼっと/環境まちづくりNPOエコメッセ





## 働きにくさを抱えた人も、共に働く場を増やそう！

インクルーシブ事業連合では、毎年、働きづらさを抱える人と共に働く場を広げるため、共に働く事業所指定寄付の募集を行うとともに、「共に働く事業所・報告会」を行っています。2023年度の報告会では、先進事例として「NPO法人わくわくかん」理事の若畑省二さんから話を伺い、昨年度寄付を募集した「NPO法人エコメッセ」代表、大嶽貴恵さんから活動報告していただきました。

### 「NPO 法人わくわくかん 若畑省二さんのお話」

NPO 法人わくわくかんは、東京都北区で 20 年以上にわたり精神障害の方に対するサポートを行っており、就労継続支援A型事業、就労移行支援事業、自立訓練事業、グループホーム、計画相談事業、就労支援センターなど、就労に関する支援がメイン。

2021 年からは、コミュニティカフェとリユースリサイクルを行うリサイクルセンターを組み合わせた「しげんカフェ」が東京都のソーシャルファーム制度<sup>(\*)</sup>の予備認証事業所として認証され、内装工事費等の助成を受けスタートした。地域の中での居場所作りがコンセプトの一つ。

日本の就労支援制度は当事者に対する訓練に偏重しており、その根底には就労困難は当事者の能力不足など自己責任で生じているという根強い考え方がある。困難を抱えた方もそれぞれの適性があり、その適性を生かせるようなその職場があれば、就労できるはずであり、当事者それぞれの適性に合った職場が準備されていないことが最も大きな問題である。自己責任を問う前に、労働市場を整えていく必要がある。それは社会の責任であり、行政の問題であり政治の問題ではないか。就労困難な当事者をそれぞれの適性に就いて、社会的に包摂していく労働統合型社会的企業はヨーロッパや韓国では非常に一般的だが、日本では残念ながら制度として確立していない。

近年、リサイクル分野で社会的目的を持った事業が増えてきている。それぞれとしては小さな社会的企業<sup>(\*)</sup>が連携・協同して社会的経済を形成していくことができ

るとい。ソーシャルファーム制度や労働者協同組合法の施行など、追い風が吹いている今こそチャンスと考えている。

<sup>(\*)</sup> 自律的な経済活動を行いながら、就労に困難を抱える人が、必要なサポートを受け、他の従業員と共に働いている社会的企業。

<sup>(\*)</sup> 利益の追求だけではなく社会的な問題解決を目指す企業



北区の浮間四丁目交差点にある「しげん café わくわく」

### 「NPO 法人エコメッセ 大嶽貴恵さんの活動報告」

担い手不足で継続が難しくなった千歳船橋店（世田谷区）を本部直営店としてリニューアルするにあたり、共に働く場の拠点としていくことを法人全体で検討することになった。現在、NPO 法人コンチェルティーノとのコラボで「共に働く」ことを実践している。共に働くことはそれぞれのちよとした知恵と工夫で実現できる。エコメッセが

地域にあるということは、環境問題に取り組む場だけでなく、共に働く場もあるという安心感につながる。信頼できる場が地域にあることは、とても大事なことだと考えている。



エコメッセちとふな店

インクルファンドで助成しました

## お弁当のモモ（小平市）

「モモ」がめざすのは、食事を作ることが困難な場面でも、生活クラブの食材＝「消費材」が好きで、食べ続けることを望む人にお弁当を届けることです。

「少しでも安全なものを子どもに食べさせたいと考えている親が、罪悪感なく安心して頼める惣菜があれば、買い物や夕飯を作る時間を短縮し、子どもとお風呂に入り、一息ついて会話をする時間を作ることが出来るのではないか」「高齢になった生活クラブの組合員も相当数増えていると聞く。消費材が好きで長年生活クラブの消費材と生産者を支えてきた組合員が、最期まで大好きな消費材の食事で過ごすことができるように」という思いがお弁当のモモの立ち上げにつながっています。

2022 年 4 月にお弁当屋準備会を立ち上げ、9 月より学



2023 年 9 月のお披露目の様子



- 週替わりメニュー
- 確かな素材 & 調味料
- タンパク質 食物繊維 たっぶり
- ご自宅にお届け

園坂タウンキッチンにてオープン。完全予約制で毎週金曜日の配達を開始し、2023 年 10 月より小川町にて「一般社団法人 ワークス お弁当のモモ」が本格始動しました。地域に貢献する非営利の弁当屋として、相談所・情報提供などの「サービスステーション」の機能を持つことも目指しています。配達の際でも相談ごとや困りごとの聞き取りができるのが強みです。

まずは、事業を安定させ、「ただの弁当屋」ではない「モモ」の役割を利用者との会話の中で見出しながら、目標の「モモ」ならではの「居場所」としてのあり方を模索していくことを目指します。

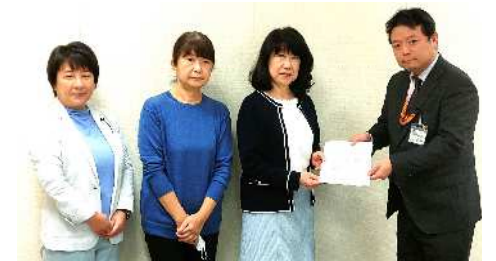
まちのほっとスペース「ちいさいおうち」、片付け事業の「わだちえっさはいさ」など、居場所としての事業所が横の連携をとりながら、地域に根差した事業となるよう期待したいと思います。

## 東京都へ 2024 年度予算提案を提出

日々の活動や事業を通して、現場から見えてくる課題について東京都の対応をヒアリングし、その結果をもとに 2024 年度の予算提案をまとめ、2023 年 11 月 1 日に提出しました。

主な提案内容（抜粋）

- 障がい福祉サービスの移動支援  
自治体によっては日常生活に必要な通勤・通学に使えないなど地域間格差が生じている。区市町村で格差が生じないよう障害者総合支援法上の自立支援給付のメニューとして位置付けるよう国へ要望を。
- ひとり親家庭ホームヘルプサービス事業  
区・市により土、日、祝日などの加算がなく、事業者としては人件費が賄いきれないとの声がある。すべての区・市で加算を付けることを促すこと。
- 東京都ソーシャルファーム制度  
市区町村と連携した公的優先発注の推進、ソーシャルファーム関連の市区町村の支出に対する費用補助を。
- TOKYO 長寿ふれあい食堂推進事業の継続を



都議代理人の岩永やす代さん(写真左から1番目)と共に、予算提案を提出しました

2024 年 1 月 26 日に公表された当初予算案では、一般会計は 8 兆 4,530 億円と前年度の当初予算案を 5.1%上回り、3 年連続で過去最大を更新、特別会計と公営企業会計を加えた予算総額は 16 兆 4,000 億円台となる見通しです。オーストリアなどの国家予算に匹敵する規模の予算がどのように使われるのか、引き続きしっかりチェックして現場からの声をあげていきましょう！

## 共に働く事業所指定寄付へのご協力、ありがとうございました

誰もが共同体の一員として共に認め合いながら働き、生活できる豊かな地域社会をつくることを目指し、今年度も、一般就労に困難を抱える人と「共に働く」事業所を応援する寄付を募りました。

今回は共に働くワークスえんこらしよ、NPO 法人こすもす、NPO 法人エコメッセの 3 団体が寄付によって実現したいことと目標額を設定して寄付を募り、のべ 480 人の方から合計 392,000 円の寄付が集まりました。たくさんの応援をいただき、本当にありがとうございました！



寄付を有効活用し、ますます事業を充実させていきます！